

## 【教員寄稿】

### 私とペルナンブーコ

宮入亮

初めまして、宮入亮と申します。ブラジルの文学や文化、特にブラジル北東部「ノルデスチ」(Nordeste)の文学・文化を専門にしています。上智大学でポルトガル語を学び始め、3年と4年の文学ゼミでは、ブラジルで最も有名な詩人の一人であるジョアン・カブラル・ジ・メロ・ネト(João Cabral de Melo Neto)の作品を、拙いものではありましたが、日本語に訳したり、卒業論文を書いたりしました。卒業後は東京外国語大学の大学院で、引き続き、この詩人を中心としてブラジルの文学・文化を学びました。ブラジルの文学も文化も非常に奥深く、その魅力にとりつかれ、今に到ります。大学院在籍中には、1年間、ノルデスチの州の一つであるペルナンブーコ州(Pernambuco)のレシフェ(Recife)に留学しました。留学生として受け入れてくれたペルナンブーコ連邦大学(Universidade Federal de Pernambuco 通称UFPE)では、ジョアン・カブラルを研究した先生に指導を受け、また、現地の学生たちと共に様々な経験をすることができました。

ポルトガル語を学ぶと、ポルトガルを初めとして、ブラジル、モザンビーク、アンゴラなど様々な国とのつながりを作れるようになります。仮にその国を実際に訪ねていなくても、ポルトガル語さえ読めれば、そうしたポルトガル語圏の国々に関するテキストを直に読めるのです。ぜひこうしたこともモチベーションとして、この言語を学んでみてください。

さて、もう少し私が専門にしているノルデスチについてご説明しましょう。私が長いこと、幸か不幸か(?)研究しているジョアン・カブラルという詩人はブラジルという国はもちろん、海外でも評価されていますが、何より出身地であるノルデスチ、より正確にはペルナンブーコという歴史ある地で大変敬意を集めている存在です。これはやはり実際に現地へ行ってみなければわからなかったことで、詩人や作家が地域でどのような存在になっているのかを肌で感じるというのはとても興味深く、また貴重な体験だったと今になっても思います。ぜひ新入生の皆さんも、「これは」というものが見つかったら、ポルトガルでも、ブラジルでも、実際に旅行したり、留学したりするのをお勧めします。彼が作品で描いている、ペルナンブーコを西から東へ、レシフェを貫流し、大西洋へ注ぐ「カピバリベ川」(O Rio Capibaribe)は、先住民の言語で「カピバラの川」という意味をもっている川で、そのペルナンブーコの詩人の文学の源泉となっています。州都レシフェでは、このカピバリベ川沿いにベンチに腰かけたジョアン・カブラルの像があり、その地で偉大な詩人として認められていることがうかがえます。

ジョアン・カブラル以外にも、様々な魅力に満ちた文化を残しているのがペルナン

ブーコです。ごく僅かですが、簡単にいくつか紹介します。昨年のリオデジャネイロ五輪の開会式に出演していた、ペルナンブーコ出身のシンガーソングライターのレニーニ (Lenine) の歌に「北のライオン」 (Leão do Norte) というものがあります。「北のライオン」というのは実はペルナンブーコのこと、この歌の歌詞はこの地の詩人や文化を数多く取り上げています。ジョアン・カブラル、カピバリベ川はもちろん、レシフェのカーニバル (移動祭日のため、だいたい2月、3月に開催) で行われるフレヴォ (Frevo)、アフリカ系ルーツのマラカトゥ (Maracatu)、バイアン (Baião) の王と称される歌手ルイス・ゴンザーガ (Luis Gonzaga)、民衆音楽とクラシック音楽を組み合わせるというコンセプトで展開したオーケストラ・アルモリアル (Orquestra Armorial) など、ペルナンブーコの豊かな音楽文化を歌い上げています。フレヴォは軽快な金管楽器の演奏、地元の素晴らしさを賞賛する内容の歌詞、アフリカ系の文化カポエイラ (Capoeira) に起源があるともいわれているアクロバティックな踊りで表現される音楽です。マラカトゥは太鼓によるエネルギッシュな音楽で、これを電子音やヒップ・ホップと組み合わせ、マンガビート (Mangue Beat) というジャンルで、ペルナンブーコを表現したのがシコ・サイエンス (Chico Science) とナサウン・ズンビ (Nação Zumbi) というアーティストたちでした。ルイス・ゴンザーガはバイアンと呼ばれる音楽で有名になった歌手で、ノルデスチの半乾燥地帯の内陸部セルタンを歌った「アザ・ブランカ」 (Asa Branca) などの曲がよく知られています。オーケストラ・アルモリアルは、「アルモリアル運動」 (Movimento Armorial) という総合的な文化運動のなかで、その美学に基づいた音楽を演奏しました。この文化運動を主導したのがアリアーノ・スアスーナ (Ariano Suassuna) という作家で、彼はペルナンブーコの北に接するパラíba州 (Paraíba) 出身ですが、レシフェを拠点として長く活動していました。

このアリアーノ・スアスーナという作家も、ジョアン・カブラルと並び優れた文学を残した人物ですが、レニーニの歌にも出てくる音楽以外のペルナンブーコ、より正確にはノルデスチの文化も大いに利用しました。例えば、マムレンゴ (Mamulengo) という人形劇を参考に演劇作品を書いたり、版画をほどこされた表紙の簡素な小冊子の形で販売されるコルデル文学 (Literatura de Cordel) の登場人物を小説に登場させたりしています。

このように、非常に豊かな文化をもつブラジルのノルデスチをほんの僅かながら紹介しましたが、最後に私の好きなブラジルの果物を二つ紹介します。一つはカジュ (caju)。これはカシューナッツの果実の部分で、少し渋いですがビタミンCが豊富です。もう一つはマンガーバ (mangaba)。シャーベットは (私には) 最高です。あ、それからアサイ (açai) も好きですね。ポルトガル語を学び、実際に話されている国へ行き、現地の食べ物を味わうというのも立派な経験ですよ。何はともあれ、よろしくお祈りします! Muito prazer!